

[全地域]

実施者

＜実施者＞産学協働地域活力創造事業 地域コーディネーター 青木 秀幸（千葉工業大学非常勤講師，合同会社いいもんだ）
千葉工業大学 情報科学部 情報工学科1年 佐久間恒洋，創造工学部 建築学科2年 齋藤 知哉

＜協働パートナー＞

- 【行政】南房総市 市民生活部 市民課 市民協働G，観光プロモーション課，教育委員会 子ども教育課，富山地域センター
- 【企業等】ベケレの村ほか，*実施サポート 千葉工業大学新習志野学生担当
- 【市民団体等】地域づくり協議会（ふらっと，みよし，きらり，ぎずな），大井自主防災組織かわせみ，白間津大祭実行委員会，白間津地区青年会，フラワーマーチ実行委員会

1. 背景・目的

南房総市では、3年にも及ぶコロナ感染症拡大の影響で地域の産業活動や地域活動（お祭りや子ども会，その他行政関連行事），市民活動等が停滞するなど地域全体の活力低下が心配されている。その要因として考えられるが「団体内や団体外とのヒトのつながりの断絶」。今後，南房総市が活力を取り戻し次なる災禍にも対応しうる強い地域を目指すには，地域の担い手が元気を取り戻し，市民協働（つながり）をアップデートすることが重要である。

- そこで本PJでは，本年度主な目的に以下の3つを設定した。
- ①南房総市で特に担い手の応援が必要と考えられた「市民活動」「地域産業」「防災教育」の担い手の活動の継続や再始動を，工科系の大学生や教職員等の大学関係人口がボランティア・プロボノ（専門性を持ったボランティアのこと）を通じて応援すること，
- ②現地での実践活動を通じて，担い手の役割や機能を補えるような大学関係人口を育てること，
- ③団体外とのつながりを取り戻すためにボランティア等の効果的なマッチング手法を先進事例等から探りしくみづくりを検討することそしてこれらの取組みを進めることによって，大学関係人口の“新しい人の流れ”を南房総市に定着し，地域の活力再生にむけたビヨンドコロナの新たな市民協働推進の一助となることを期待する。

2. 活動内容

(1) ボランティア等を通じた「市民活動等の再始動応援」

1) 3年ぶりに開催の自然に親しみながら健康づくりするウォーキングイベント第33回南房総フラワーマーチへの学生による再始動応援

本イベントは兼ねてより中心的な運営団体の高齢化で継続的な開催が不安視される中，コロナ禍以前よりボランティアプログラムを絡めて学生ボランティアがお手伝いしてきたイベントであった。今回は3年ぶりの再開に当たっての運営サポートを主旨としたボランティアプログラムに学生2人が参加。サポート内容は前日の千倉保健セ

ンター会場のテント設営等からはじまり，当日は中継地点での湯茶接待，駐車場案内，会場撤収など負担が大きい裏方作業を担当。学生ボランティアにとっても多様な運営主体や子ども～高齢者，海外から参加者など幅広い層の人達と触れ合う機会があり，コミュニケーションなどを向上させるいい機会となった（図1-4）。

2) 国指定重要無形民俗文化財「白間津大祭」の民俗文化継承の視点からの学生・教員による4年ぶりの開催応援（事前準備）

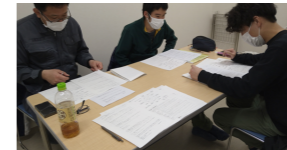
千倉町の白間津地区では4年に1度7月下旬の3日間にわたって祭礼行「白間津大祭」が行なわれる（次回は令和5年）。1000年以上の歴史をもつ本祭礼行は神社から神輿で海岸の仮宮に神様を送り届ける「御浜出」と，12mの大幟を縄で曳き合う「オオナワタシ」，そして奉納踊「ササラ踊り」を中心とする民俗芸能の3つの要素からなる。しかしこれらの担い手は男女の性別，年齢で決まっており，白間津地区220戸ほぼ全世帯の参加をもってしても，少子化の影響で子どもを中心とした役割の担い手が確保が困難な状況にあった。それでも前回は工夫して各役割の年齢制限を上げたり，OBへの協力をえたり，足りない人手を周辺地域からのボランティアで補っていた。千葉工大の学生・教員有志はその地域外のボランティア（関係人口）として，期間中に延べ50名がボランティアとして参加。特別な技能や練習が必要ない会場設営，幟づくり，神輿の担ぎ手などを担っていた（図-5）。これらの経緯や関係性をベースに本年度は事前に次年度開催を迎える祭礼行にむけて，運営側が困っていることを共有し（6月），それに対する応援策について白間津地区青年会や白間津大祭保存会の中心メンバーと事前協議を行ってきた（7月）。そこから主に以下のような要望があがってきた。

- ①踊り手が足りないので練習から当日まで一連の取り組みに参加してくれる踊ることが好きな学生さんを募集したい（ボランティア）。
- ②前回，関係者や来場者用の陽よけ場所づくりへの要望があがったことから竹を使った休憩所づくりを，青年会メンバーや地元大工等と一緒に勤めていきたい（ボランティア&プロボノ）。



学生の成長（教育成果）
～ふりかえりアンケートより～

- 自分が成長した社会人基礎力について
 - ・自分自身の行動を計画し実行する力
 - ・コミュニケーション力 ほか
- 本経験を今後どんな場面で活かしていきたいか？
 - ・地方における情報工学を考えると
 - ・留学ボランティアに挑戦したい ほか
- 南房総で継続してボランティアやアルバイトをしたら？
 - ・今回のようなイベントスタッフ
 - ・自然に触れ合うことができることほか



3 学生の成長（教育成果）～ふりかえりアンケートより～
4 1～4 第33回南房総フラワーマーチへ学生による再始動応援
5 前回の令和元年開催の「白間津大祭」御浜出にて神輿をかつがせてもらう学生たち

域学協働の工夫！

- ★地域の「産業（主に1次）」「防災」「市民活動」の担い手を支え，機能を補完するような南房総市の関係人口を育てるといった地域側の関係主体と大学との目的・目標の共有
- ★学生にはボランティア以降地域への「関わりしろ」を見つけるうえでのヒントを地域側より提供してもらい，地域や団体・人との関係性の階段を上っていくうえでの具体的な方法（貢献形態、学内カリキュラム）も紹介

- ③お祭り当日や造作物の作り方等の画像や映像記録を残したい。地域の人達は忙しくてこれまでほとんどできない（プロボノ）
- これを受けて本プロジェクトとしても8月から休憩所等の企画・デザイン検討を開始し，サークルなど踊り手候補を探してきた。しかし，年明け1月，残念ながら祭りの中心的存在で地域の子どもの務める「仲立」の担い手が確保できず，歴史上初めて令和5年度開催予定の白間津大祭の中止が実行委員会によって決定された。

(2) 「1次産業農業の新分野事業展開」や「防災教育」に纏わる担い手応援に向けたボランティア&プロボノについて（計画協議）

1次産業農業の新分野事業展開では，11月から2月にかけて数年前に新規就農されたカレンデュラ農家さんのコスメ製品開発や体験プログラム検討にあたってのモニターボランティアプログラムを援農とともに企画して準備をすすめていたが，コロナ感染症拡大の影響もあり応募者の見通しがたらず本企画の実施を次年度に延期した。「防災教育」の担い手応援については，市内の小中学生向けの防災教育の担い手の一組織市役所消防防災課と学校での防災教育についての課題共有と大学連携の可能性を協議し（10月），南房総市版の災害シミュレーションゲーム開発についての協働を約束した。また地域防災の担い手自主防災組織の一つかわせみ（大井）からは防災訓練（10月）を通じて，これから富山において自主防災組織の地域普及を目指している地域センター等関係者からは「地域防災講座（6月）」を通じて関係者へのヒヤリングや情報交換の協力を得た。そこから学生防災サポーター育成プログラム等開発の知見を得た。

(3) 市民活動等の再始動を促す支援ツール「ボランティアマッチングサイト」についての調査研究を開始

ビヨンド・コロナにおいて地域の担い手が活動をうまく再始動させていくには，団体内の人たち繋がりや団体外の人たちとのつなが

*表彰・マスコミ掲載など
・市町村と市民活動団体との連携促進事業に係るアドバイザー派遣活用事業（千葉県），茂原市役所生活課市民活動支援センター主催「まちびとカフェ特別編 市民活動の再始動～アフタコロナの協働にむけて～」，2023.3 ※協働の再構築に関する講演とオリジナル教材を使ったワークショップにてファシリテーションを担当。